

平成27年度第2回野菜需給協議会の概要

独立行政法人農畜産業振興機構

生産者、流通業者、消費者等野菜にかかわる関係者が一堂に会する平成27年度第2回野菜需給協議会が開催され（11月13日（金）13:30~15:30、（独）農畜産業振興機構会議室）、「平成27年産秋冬野菜の需給・価格の見通し」等を確認しました。概要については下記のとおりです。

記

1 平成27年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて

- 野菜需給・価格情報委員会（平成27年11月5日開催）において、とりまとめられた「平成27年産秋冬野菜の需給・価格の見通し」について説明があり、その後、質疑が行われた（見通しの詳細については、別紙のとおり）。

【価格見通しのポイント】

- **冬キャベツ**は、12月までは、安値であった前年を上回る見込み。1月は主産地において順調な出荷が見込まれ前年並みの見込み。2月は、主産地において順調な出荷と一部地域で台風によるまき直したほ場からの出荷が重なることから前年を下回り、3月は安値であった前年並みの見込み。
- **秋冬だいこん**は、期間を通して、主産地において好天に恵まれ順調な出荷が見込まれることから、11月から12月は安値であった前年を上回るものの、1月から2月は前年を下回り、3月は安値であった前年並みの見込み。
- **たまねぎ**は、主産地において、天候に恵まれ豊作基調となり、潤沢な出荷が見込まれることから、11月を除き前年を下回る見込み。
- **冬にんじん**は、一部のほ場で降雨の影響による発芽不良がみられたが、全体的には順調な生育により前年並みの出荷が見込まれ、期間を通して安値であった前年を上回るものの、前年並みの見込み。
- **秋冬はくさい**は、主産地において、台風18号の長雨の影響による生育遅れや作付面積の減少などから、3月を除き安値であった前年を上回る見込み。
- **冬レタス**は、11月は安値であった前年を上回るものの、12月以降は、主産地において、天候もよく概ね順調な出荷が見込まれることから、前年を下回る見込み。

2 野菜の消費拡大活動等について

- 主婦連合会、全国地域婦人団体連絡協議会、全国農業協同組合連合会及び農林水産省より、野菜の消費拡大の取組みについて説明があった。
- 協議会の取組として、野菜のことをもっと知ってもらうために、「やさいの日」（8月

31日)に東京都内で開催された「野菜シンポジウム」の開催概要についての報告があった。

- 毎年度、野菜の生産現場の実態等の理解をさらに深めるために開催している現地協議会について、今年度は平成28年2月上旬から中旬までの間に神奈川県下(三浦半島のだいこん産地)で開催するとの報告があった。

3 青果物流通システム高度化事業について

- 野菜流通カット協議会より、加工業務用野菜の新たな流通方式を普及・啓発するため、生産者や実需者が参加するセミナーの開催、新たな流通方式の実証試験、産地側と実需者側のマッチングのための情報・意見交換会の開催、先端技術による長期貯蔵の実証試験など、幅広い取り組み内容について説明があった。

4 その他

会員から以下のような発言があった。

- 野菜価格において、今夏のキャベツは平均的な出荷量であるにもかかわらず価格が上がっている。これは主産地における雹害や東北の産地における長雨の被害により業務用・加工用の需給バランスが崩れ加工業務用向け等が量確保のために市場買いに走ったことが一つの要因と考えられる。
今後は、業者に数量の安定的調達対策として、産地の見直しの動きがでてくるのではないかと。
- モーダルシフト(国内の貨物輸送をトラック輸送から、鉄道や船舶による輸送に転換すること)の問題については、業界内で鉄道貨物に対する理解が不足していることから、コンテナや車両、荷の到着時刻などの問題と併せて、関係者の理解を深めるために北海道や熊本で勉強会を行っている。
- これまでは、スーパーなど買う側の事情にあわせて出荷しているが、消費地においてストックヤードなどを整備し、産地側の事情で出荷できるシステム構築が重要である。
- キャベツの貯蔵技術について実証試験を進めており、湿度100%、室温2~5度の条件の中、夏場では30日、冬場では40日は保存が可能と考えており、水滴による雑菌の発生も通気のある程度行えば発生しないと考えている。この技術が進めば、需給調整にも効果があると考えている。
- 地方の労働力を活用して、産地で1次加工を行うことは、付加価値を高めるうえで有効であるが、地方の農家の中には、1次処理など加工を行っているところも見られるものの、総体的には、本来の農業の作業があって加工まで手が回らないところが多い。また、品目によっては、1次加工の方法やレベルが異なる。このため、農家の経営や作物特性を踏まえて判断することが必要である。

【参考】配布資料等については、ホームページで公表します。

(問い合わせ先)

独立行政法人農畜産業振興機構

野菜需給部 需給推進課

前川、鶴狩、濱名、小林

電話番号：03-3583-9449

平成 27 年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて

(別紙)

1 冬キャベツ (11~3月)

生産地の動向等

- 主な産地：千葉、神奈川、愛知

 - 作付面積は、千葉及び愛知は 101%、神奈川は 100%。
 - 生育状況は、千葉は、8 月下旬から 9 月上旬の長雨の影響で播種時期が遅れた。一部のほ場で生育進度にバラツキが見られるものの、概ね順調に生育している。神奈川は、千葉同様に 8 月下旬から 9 月上旬の長雨の影響が多少あるものの、順調に生育している。愛知は、概ね順調に生育している。
 - 出荷開始は、千葉は 10 月上旬、神奈川は 11 月上旬、愛知は 10 月下旬。
- この先 1 ヶ月の気象予報は、平均気温は高い、降水量は多い、日照時間は少ないと見込まれる

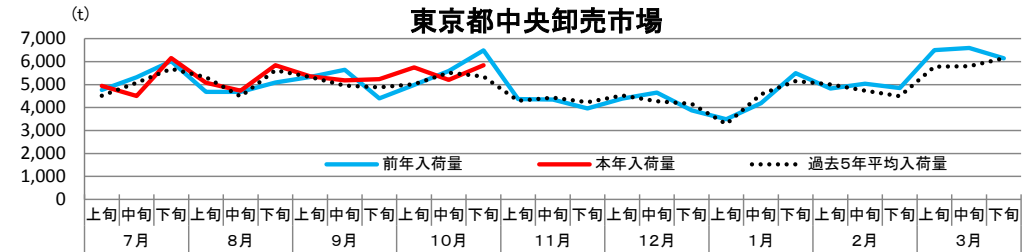
野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 供給見通し

 - 出荷量は、期間を通じて概ね安定した出荷が見込まれ、11 月及び 3 月を除いて前年を上回る見込み。また、加工・業務用対応として九州地域での作付が増加している。
- 需給・価格見通し

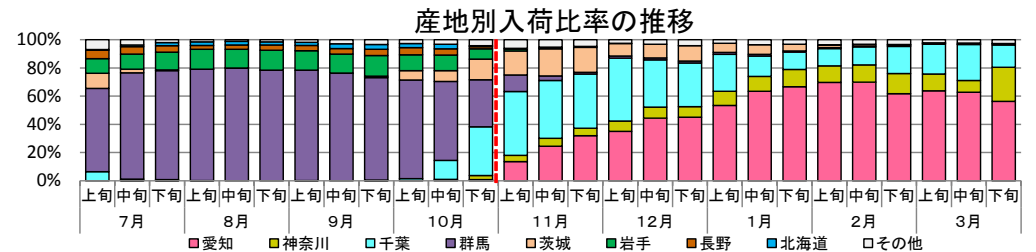
 - 価格は、12 月までは前年を上回るが、1 月は主産地である千葉産や愛知産が、概ね順調な出荷が見込まれることから前年並み、2 月は愛知産が順調に生育していることや台風等でまき直したほ場からの出荷も重なり入荷が増えると見込まれることから前年を下回り、3 月は安値であった前年並みの見込み。
 - 加工・業務用は、茨城産の長雨の影響もあり、年内用に中国産を手配している業者がある。ただし、中国産の手配を行っていない業者は、国産を手当する必要があるため、契約産地で対応できなければ、市場から購入するために相場に影響すると思われる。

入荷量の推移等

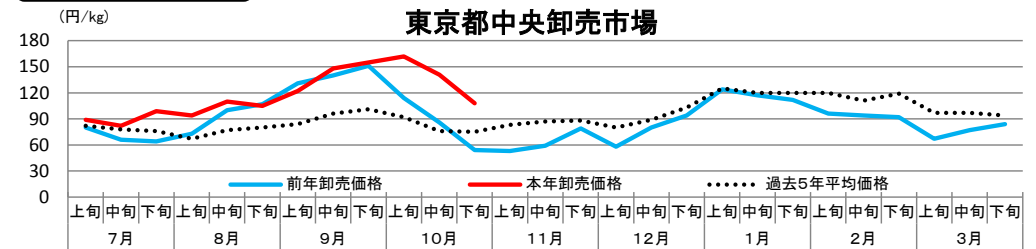


《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	→	↗	↗	↗	→



価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	↗	↗	→	↘	→

2 秋冬だいこん（10～3月）

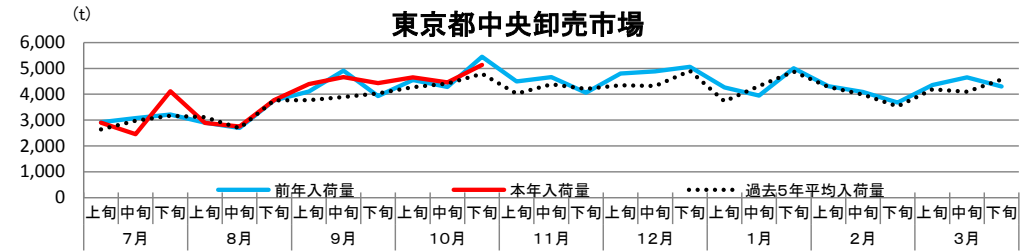
生産地の動向等

- 主な産地：千葉、神奈川、徳島
 - 作付面積は、千葉は99%、神奈川及び徳島は100%。
 - 生育状況は、千葉及び神奈川は、8月下旬以降の降雨の影響で、播種が遅れたが、その後の好天により、順調に生育している。徳島は、9月中旬以降の天気も良く、順調に生育している。
 - 出荷開始は、千葉は10月中旬、神奈川は10月下旬、徳島は10月下旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高い、降水量は多い、日照時間は少ないと見込まれる。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

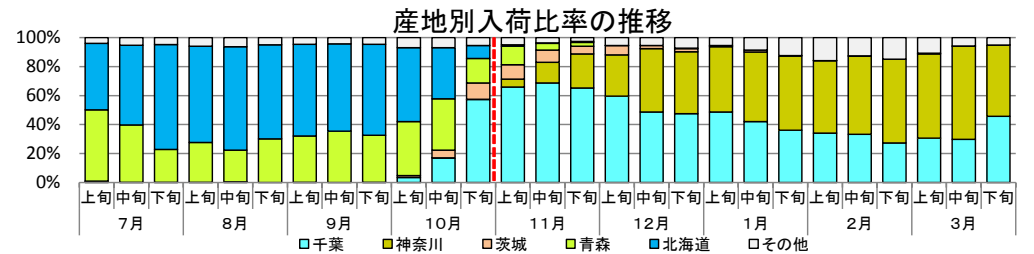
- 供給見通し
 - 出荷量は、8月下旬から9月上旬までの長雨の影響で、生育の遅延があったものの、現在、生育は順調であることから、1月及び2月は前年を上回り、その他の月は多かった前年並みの見込み。
- 需給・価格見通し
 - 価格は、11月から12月は、概ね順調な入荷が見込まれものの安値であった前年を上回り、1月及び2月は、神奈川産などで順調な出荷が見込まれることから、前年を下回り、3月は安値であった前年並みの見込み。
 - 加工・業務用は、毎年おでん需要が見込まれる時期ではあるが、今年は暖冬の予想もあり、消費が低迷して安値になることも考えられる。

入荷量の推移等

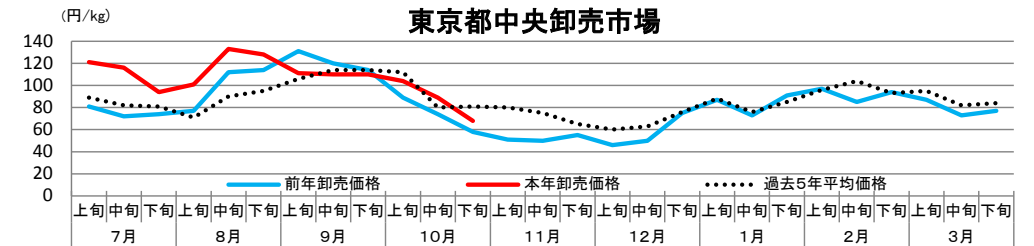


《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	→	→	↗	↗	→



価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	↗	↗	↘	↘	→

3 たまねぎ (11~3月)

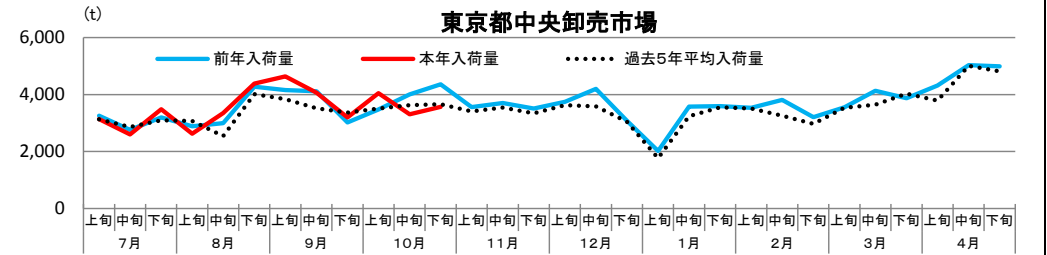
生産地の動向等

- 主な産地：北海道
 - 作付面積は、北海道は103%。(加工・業務用向けの作付けが増加)
 - 生育状況は、北海道は、生育期等の低温、干ばつの影響で遅れ気味であったが、7月以降の適度な降雨により生育は回復した。収穫作業は、終了間近となっている。
 - 出荷開始は、北海道は極早生種が8月上旬、早生は8月下旬、中生及び晩生が11月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高い、降水量は平年並みか多い、日照時間は平年並みか少ないと見込まれる。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

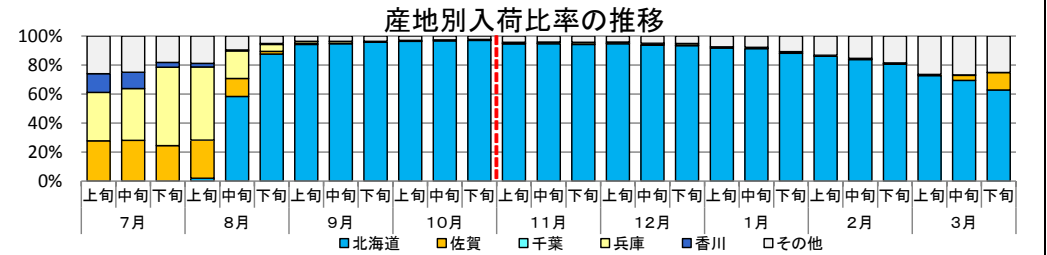
- 供給見通し
 - 出荷量は、天候に恵まれて作柄も良く、11月を除き期間を通じて前年を上回る見込み。
- 需給・価格見通し
 - 価格は、北海道産が豊作となり、潤沢な出荷が見込まれることから、11月を除き期間を通じて前年を下回る見込み。
 - 加工・業務用は、中国産の作柄が良くないとの情報もあるが、国内での剥き玉業者も限られ、中国産のニーズは堅調であると考え。
 - 現在、国産の剥き玉の価格は、中国産と比較すると50~60円/kg程度高い価格で取引されている。
 - 量販店では、価格が安定すると予想されることから、大量パックやばれいしょ、にんじんなどと組み合わせたセット売りを実施し、消費拡大を図ることを考えている。

入荷量の推移等

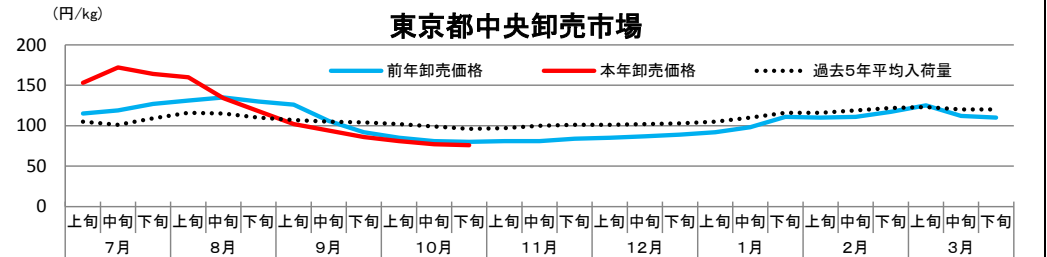


《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	→	↗	↗	↗	↗



価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	→	↘	↘	↘	↘

4 冬にんじん (11~3月)

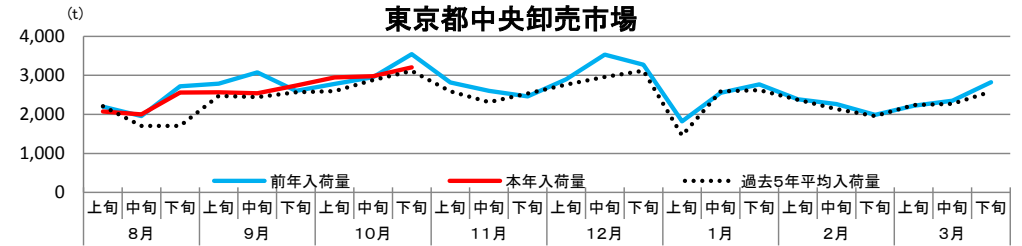
生産地の動向等

- 主な産地：千葉、愛知、長崎
 - 作付面積は、千葉は100%、愛知は96%、長崎は101%
 - 生育状況は、千葉及び愛知は、8月下旬以降の降雨の影響で生育が遅延している。長崎は、8月下旬の降雨の影響で、一部ほ場に発芽不良がみられるものの、全体的には順調に生育している。
 - 出荷開始は、千葉は10月下旬、愛知は11月中旬、長崎は11月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高い、降水量は多い、日照時間は少ないと見込み。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

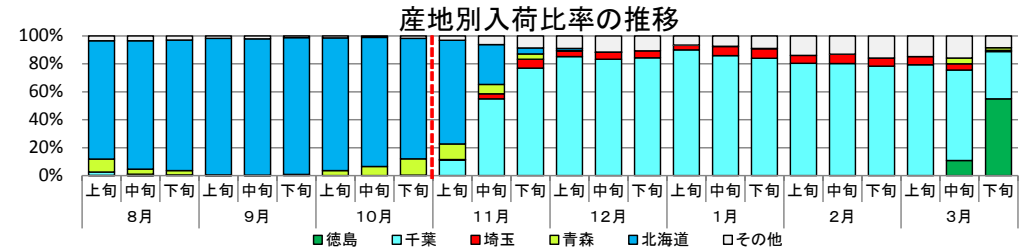
- 供給見通し
 - 出荷量は、8月下旬から9月上旬までの長雨の影響から出荷の遅れはみられるものの、それ以降の天候も安定し、生育は回復傾向であることから、期間全体では前年並みの見込み。
- 需給・価格見通し
 - 価格は、千葉産や長崎産などで概ね前年並みに出荷が見込まれるものの、期間を通して安値であった前年を上回り平年並みの見込み。
 - 加工・業務用は、外食向けを中心に国内志向が強く、需要は堅調に推移すると考える。しかし、中国産は、品質がよく歩留まりもよいため、一定の需要はある。

入荷量の推移等

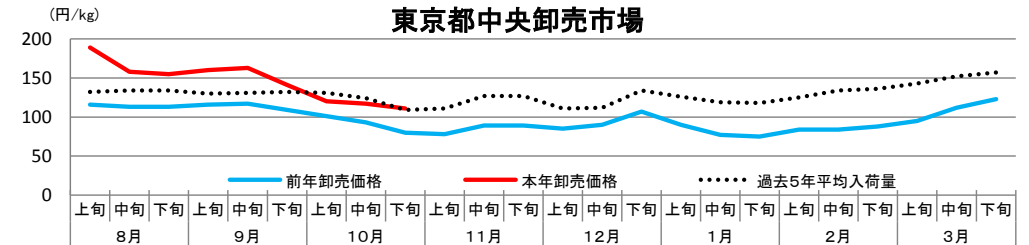


《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	→	→	→	→	→



価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	↗	↗	↗	↗	↗

5 秋冬はくさい（10～3月）

生産地の動向等

- 主な産地：茨城、愛知、兵庫

 - 作付面積は、茨城は86%、愛知は74%、兵庫は100%。
 - 生育状況は、茨城は台風18号の長雨によるかん水、定植遅れの影響から根張りが弱く、小玉傾向となる見込み。愛知は8月下旬から9月上旬の降雨等の影響から、一部地域で生育の遅延があるものの、全体的に順調に生育している。兵庫は8月下旬の長雨の影響から定植は遅れたものの、現在は回復して順調に生育している。
 - 出荷開始は、茨城は10月上旬、愛知は11月中旬、兵庫は12月上旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高い、降水量は多い、日照時間は少ないと見込まれる。

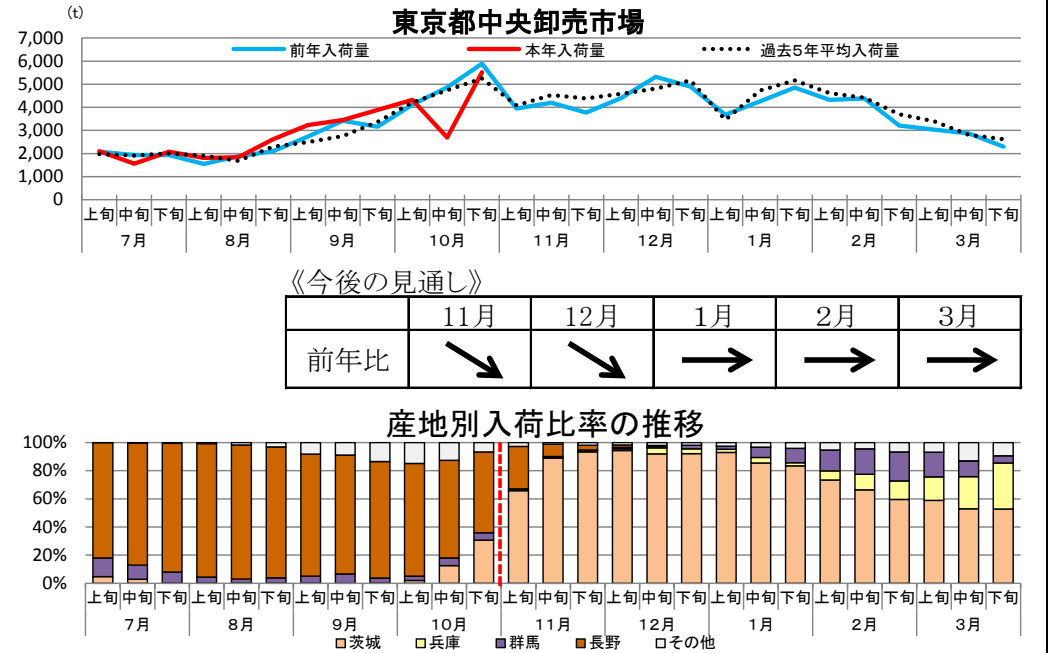
野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 供給見通し

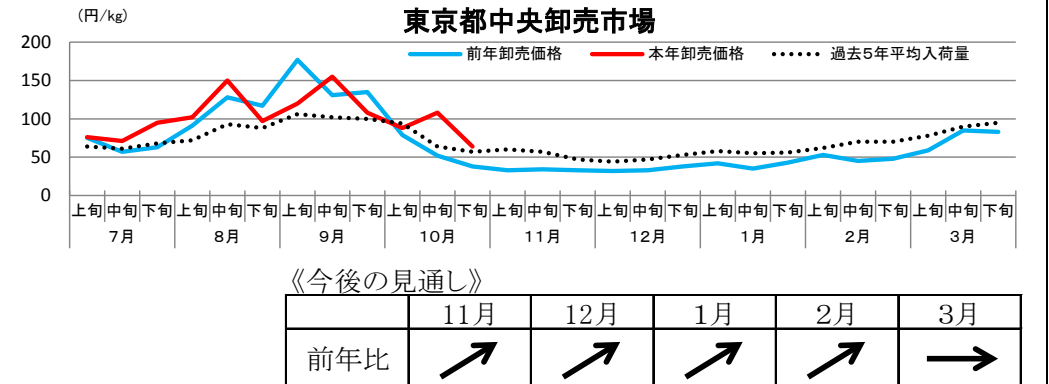
 - 出荷量は、主産地の茨城産は台風18号の長雨の影響から小玉傾向となることや作付面積の減少から、前年を大きく下回る見込み。愛知産は、1月以降はブロッコリーへの品目転換で作付面積が減少するものの、11月から12月は概ね順調な出荷が見込まれることから、前年を上回る見込み。全体では、愛知産で上回るものの、主産地の茨城産が前年を大きく下回ることから、12月までは前年を下回り、1月以降は低温や降雪の影響で少なかった前年並みの見込み。
- 需給・価格見通し

 - 価格は、主産地である茨城産が前年に比べて大幅に減少すること等から、3月を除き、安値であった前年を上回る見込み。
 - 加工・業務用は、茨城産のかん水の影響で、原料が少なくなるために業者は年内の売込みを控えた。また、前年の春はくさいの不作の影響から、秋冬はくさいを多めに貯蔵する業者が増えることが考えられる。

入荷量の推移等



価格の推移等



6 冬レタス (11~3月)

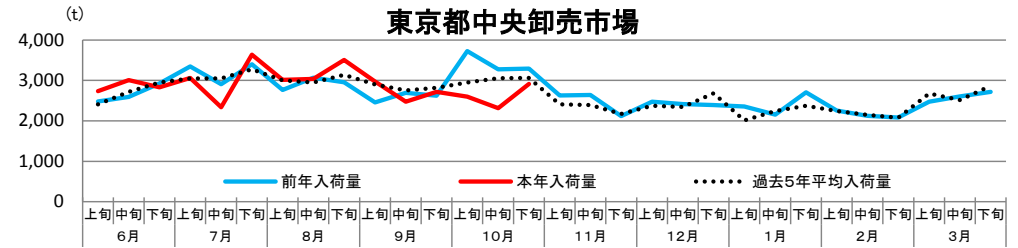
生産地の動向等

- 主な産地：茨城、静岡、兵庫、香川
 - 作付面積は、茨城及び兵庫は100%、静岡は98%、香川は102%。
 - 生育状況は、茨城及び香川は台風18号の長雨の影響で定植は遅れたが、現在は順調に生育している。静岡は生育にバラツキが、兵庫は10月に入って干ばつ傾向がみられるものの、概ね順調に生育している。
 - 出荷開始は、茨城は9月下旬、静岡は10月下旬、兵庫及び香川は10月中旬。
- この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高い、降水量は多い、日照時間は少ないと見込まれる。

野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

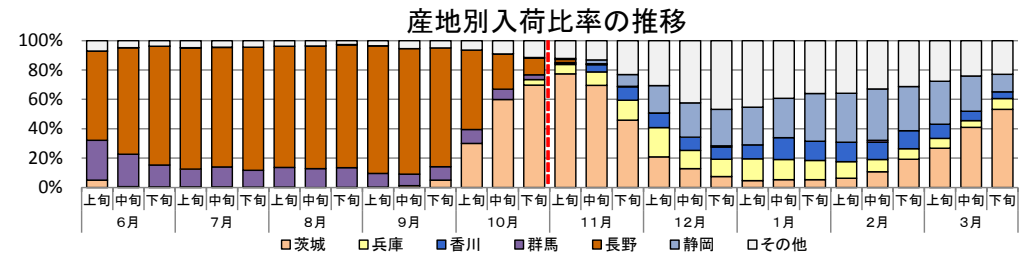
- 供給見通し
 - 出荷量は、主産地の生育は概ね順調であることから、11月を除き期間を通じて前年を上回る見込み。
- 需給・価格見通し
 - 価格は、11月は安値であった前年を上回る見込み。12月以降は、茨城産から静岡産などへの産地の切り替えとなるが、順調な入荷が見込まれることから前年を下回る見込み。
 - 加工・業務用は、九州地域での契約産地を拡大しており、生産量全体の7~8割を契約している産地もでてきている。
 - 12月以降は台湾産を使用する業者も増えている。また、本年は台風が多かったため時期ごとに出荷量にバラツキがでる恐れもある。

入荷量の推移等

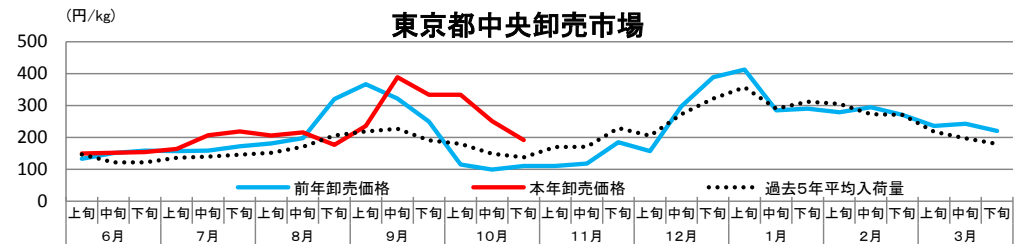


《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	→	↗	↗	↗	↗



価格の推移等



《今後の見通し》

	11月	12月	1月	2月	3月
前年比	↗	↘	↘	↘	↘

その他、秋冬野菜全体の消費の動向等

① 主要6品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向

- ・ はくさいの一種である、山東菜に注目している。
- ・ トマトやブロッコリーなど、簡単に食べられるサラダ商材は今後も伸びる。現在、高糖度トマトのジェラートやジェルなど加工品に注目している。また、おでんの食材としてトマトの利用も検討している。
- ・ 環境配慮型のエコ長ねぎなどの販売額が年々増加している。それ以外にも、ズッキーニやブロッコリー、量は少ないがパクチーなどに注目している。
- ・ 居酒屋や外食・中食では、需要量は少ないがハーブ系のミントやイタリアンパセリ、ルッコラの使用量が増えてきている。
- ・ これまで、ねぎは地域によって青ねぎと白ねぎに区分されていたが、大手外食チェーンの取組もあり、関東で青ねぎや、関西で白ねぎがよく食べられるようになり、食の交流が進んでいる。

② 野菜の物流を巡る情勢変化の影響とその対応

- ・ モーダルシフトは、まずは現場の理解を得ないと進みづらいし、フェリーの活用やコンテナの整備も必要であるが、確実に歩みが前に進んでいるのではないかと考えている。
- ・ 農林水産省の補助事業などにより、札幌や熊本においてモーダルシフトの必要性について理解をいただくためのセミナーや実証実験を実施している。成果を公開して皆様に理解を得ることが必要である。
- ・ 産地側が負担する流通コストの低減を図るため、これまでの店舗までの配送を流通センターまでの配送とした。これによって農家手取りを少しでも多くできると考えている。

③ 最近の原油価格や労務費の動向等による野菜価格への影響

- ・ 原油価格は、昨年に比べて下がっているが、直近の野菜価格に大きな変化を与えるものではない。
- ・ 労働力不足の問題については、大企業は外国人労働者の雇用や機械化、設備の高度化で効率化を図っているが、中小企業には影響が生じていると考える。
- ・ 地方の労働力を活用して産地で1次加工を行えば、農家の手取りも上がるのではないかと考えている。

④ 震災や原発事故の影響による消費動向

- ・ イベントなどにおいて、福島県産などの農産物は安全であることを呼びかけ、風評被害がないような取組を行っている。
- ・ 学校や保育園に対しては、放射線量検査の実施状況等を説明しながら納品していることもあり、福島産を敬遠する声も少なくなっている。
- ・ 全体として消費者などからの問い合わせは少なくなっている。

⑤ その他

- ・ 輸入食品の検査や保管の状況などについて勉強会を横浜で開催した。参加者からは、全量検査でないこと等に対して驚きの声が上がっており、輸入品に関する検査状況を含む情報開示が必要との意見があった。